2022 年度学童保育指導員研修
「学童保育でのあそびとあそびの実際」

2023 年 1 月 29 日(日)

島田歩実

学童保育の生活の中で、そして子どもたちの成長の中で欠かすことのできないあそび。今回この研修を受講させて頂き、あそびとはなんだろう？と深く考え、見つめることができてとても面白かったです。

まず、放課後児童クラブ運営指針の中に、“あそび”という言葉は 56 回も出てくると講師の新美先生が仰っていました。いかに子どもたちにとって重要なものなのかを再確認しました。次にあそびという言葉の意味を考えていきました。単純に“あそぶこと”や、“気晴らし”という意味がありました。日本語での“遊び”と英語での“遊び”(PLAY)に共通していた意味が、“気持ちのゆとり”、“物と物、時間と時間の余裕空間”でした。実際にあそびの定義の中には、“行動に明確な理由がない”、“ストレスがない状態で行われる”、“自然発生的”、“何度も繰り返す”があると学びました。せわしない毎日の中で、時間に追われて生きている私たちが、必ずしもやらなければならないものではないけれど、それでもあそびを人間が求めるのは、あそびというのは心にゆとりや快楽を与えるものだからなのかなと感じました。

面白いなと思ったことは、その後にお聞きした「あそびは必ずしも楽しいだけのものではない」というものです。あそびは時に、自身を傷つけたり、悩ませたり、課題を与えたりするものとなる、というお言葉をお聞きして、確かにと思いました。小学生の時は特に、あそびの中でけがをして痛い思いをしたり、今タッチしたタッチしてないで揉めたり、苦手なドッジボールでボールがあたることを恐れてドキドキしていたり…。今学童の子どもたちと過ごしていても同じようなことを感じます。先ほどあそびの定義の中にも、“ストレスのない状態で”とあったのに、時にそうではないことに面白さを感じます。しかし、痛い思いを経験して未然にケガを防ぐ方法を知ったり、揉める経験をしていろいろなあそび方、いろいろな人がいることを知ったり、いろいろな考えがあることを知ったりできます。さらに「体をつかってあそぶことで、より賢く、より勇敢に、より優しくなれる」と仰っていたように、決してマイナスなことではなく、成長をしていく中で必要不可欠なことなのだと感じました。

難しいなと感じたことは「目的があって行うあそびや、強制されたあそびはあそびではない」というものです。一生懸命考えて準備したレクリエーションの後、子どもが「もうあそんでいいですか？」と言ったというお話をお聞きして私も同じ経験があると感じました。自分なりに一生懸命考えて準備したイベントの後に、「もう玄関であそんでいい？」と聞かれたことがありました。単なる自分の自己満足になってしまっていたかなと反省しました。

そういえば自分が小学校の時に、授業をつぶしてクラスレクとしてやっていたドッジボールもみんな嬉しそうだったし、先生もよかれと思って企画してくださったであろう時間

だったけど、ドッジボールが苦手な私としては、楽しいという感情よりも、必死に逃げた、という思い出の方が強く残っているなと思い出しました。また、「一輪車であそんでいる子が、転んだ時に、一輪車の車輪を見て、かき氷屋さんごっこを始めた」という話をどこかで聞いたことがあります。大人はついつい「何やってるんだ？一輪車乗ってあそびなよ」と思ってしまうかもしれないけど、そうではなく、このような偶然の楽しさとの出会いってとてもときめくものだと思います。何に対して子どもたちが心から“楽しい”と思っているのか？また、子どもたち、と言っても何にときめきや楽しさを感じるかはひとりひとり違うこと。それを心に留め、どんなことをこの子は心から楽しい！と思うのかな、と日々一緒に触れ合い、あそびながら観察をしていきたいなと感じました。

偶然に見つけたときめく楽しさって、子ども時代ならではなのかなと感じます。子ども時代は、好奇心でいろいろなことをやってみようとします。大人には考えもつかないような発想力でどんどんときめきを増やしている子どもたちってすごいなといつも思います。

あそびの面白さの要素として、この“偶然性”の他にも、“競争”、“模倣”、“スピード感”があると学びました。大人になるにつれて、誰かと競ったり、スリルを求めたりするよりかは、安全、平和な選択をしてしまいがちなのではないかなと感じます。one テーマ会で、子どもの頃のあそびの話を大人がする時に、みんなとっても楽しそうに話をするのは、忘れてしまっていた子どもの頃のときめいた気持ちを思い出すからではないかなとも感じます。今はゲームやスマホ等、電子機器の普及が発達しているけれど、そんなものがなくても楽しい！と思うことができる、ときめくことができる出会いを学童の生活の中で提供していけたらいいなと思います。そして、その子どもたちのときめきを「なにやってんの」ではなく、もちろん安全面の確保はしながら、面白いね！と受け止め、一緒に楽しんでいきたいなと思います。

最後に、「生活の中であそびが生まれる余暇の時間を大切に」「子どもにも大人にもあそびは必要不可欠。あそびがないと精神は壊れてしまう」というお言葉がとても心に残っています。宿題をすることももちろん大切だけど、“余暇の時間や空間”を提供できる雰囲気を大切にしていきたいと思います。宿題ももしかして「誰が〇分までに終われるかな？」とゲーム感覚(あそび感覚)にしてみることも時々はいいのかなとも思いました。何事も楽しんでやってみること。そして子どもたちとあそぶことが私たち指導員の大切な役割のひとつです。子どもたちと一緒に、これからもときめく瞬間を探しながら楽しんでいきたいなと感じました。